



今月の話題: 今年も最終月となり、1年の総括が行われる月である。建築界は新国立競技場のコンペ結果の白紙撤回の件と、杭データの流用問題にとどめをさすだろう。いずれも制度疲労ともいえる事象ではないか。久しく行われなかった設計競技は、今回は嘗ての業者依存の解決法がその枠を超えてしまったのだろうし、杭工事の件は工事記録が文書形式化した所以だろう。品質システムについてはその文書化を基本とする ISO-2000 シリーズが喧伝され、採用した企業も多い。その文書の信憑性はどうか。今や改めて検証が必要かもしれない(伊藤誠三)

□ 本部便り:(金森捷三郎記)

・第4回拡大理事会用資料提出締切:12月3日。

○次回拡大理事会:12月14日(月)16:00~17:30

場所:東大松村研究室(お間違えなきよう)

引続き、忘年会:本郷「宮本」にて18:00~

・事務所は年末12月29日(火)から年始1月3日まで休みといたします。

・明年1月末にはH28年度第1回拡大理事会が有ります。日程は未定。

・H28年度総会を2月22日(月)に15時から、東大山上会館にて開催予定。

□ 建築部会:(安部重孝記)

・サーツサロン討論・懇親会を11月4日(水)に開催。松村秀一先生も参加された。文京区への対応、マンションの杭の問題、これからのサーツの課題等話題豊富でした。

・文京区役所を訪問(11/9, 11/16)。文京区耐震フェア(2016年1月20~22日)に対するサーツの提案に対し建築指導課の回答があり、対応準備中です。

講演案:1月21日講師;小鹿さん、小畑さん、1月22日講演・PD, 講師;松村先生、岡本さん。会場は文京区役所1階です。

・建築部会11月16日では、本日の話題「猿橋の建て替え工事」柳川さん、「松本零士氏との対談」松本信二さんの話がありました。

・「水天宮建替計画(2層の人工地盤の上に木造社殿及びRC造2棟が建つ免震構造)作業所見学を12月4日に予定しています。

・建築WGは、建築部会企画WGと改称し、建築部会の業務・行事等の企画を自由に討論し、次世代の会員募集、他の協会・団体との連携についても具体的に検討することにしました。第1水曜日、15時~17時サロン終了後、17時~建築部会企画WGとして継続します。

○建築部会企画WG:1月6日(水)17時~18時30

○次回建築部会WG:12月は休会

建築部会:12月18日(金)17:30~19:00

1月15日(金)17:30~19:00

(以降、第3金曜日に変更)

□ 戸建住宅部会:(阿部市郎記)

・「木材利用ポイント」実施建物現地調査の第3次調査を受託し、11月中に部会員が分担して全国規模の調査を完了した。

・静岡県のE鉄道住宅事業部より受託した、供給する住宅の設計施工マニュアル等のチェックは関係者が分担チェック協議して完了し、11月6日(金)に先方に報告会を行った。尚、技術相談等は今後も継続的に実施する事としている。

・10, 11月の戸建部会のショートスピーチは菅澤光裕氏に「知的財産について」継続してお話しをしていただき、活発な論議がされ目から鱗が落ちる思いをした。

○次回部会予定:12月3日(木)18:00~20:00

ショートスピーチ:飯山道久「オーストリア・スイスの木造中大規模建築物視察記」

2016年1月部会予定:1月7日(木)18:00~

□ 集合住宅部会(小畑晴治記)

・集合住宅部会で取り組み中の“中層階段室住棟用昇降装置の研究開発”は新たな一步を踏み出せる段階に近づいてきました。11月26日にUR本社からTL他2名、JS技術開発研究所から課長、横森製作所とスギヤスから各1名が出席し、サーツから丸山と小畑が参加する形で、キックオフのブレインストーミングを行いました。UR・JSとも強い関心を示して頂きましたので、これまでの取り組みの基本スタンスを維持しながら、共同研究化に繋げて行ける状況になりました。いくつかの管理組合から、あの開発はどうなったかと問い合わせを頂いてもいます。

○次回部会予定:2016年1月12日(火)18:00~

□ マンション管理組合支援事業部(向野元昭記)

・部会標準書類の作成のうち「業務委託契約書」を前回に引き続いて討議します。尚、各担当者は素案の提出をお願いします。

○次回部会予定:12月1日(火)16:00~18:00

2016年1月12日(火)16:00~18:00

□ 建築技術誌12月号サーツ欄掲載記事

・細川洋治:伝えていきたいことあれこれ

・岡本直, 丸山和郎:「マンション耐震セミナー」報告

□ 短信:11月25日アーキニリングフォーラム「芸術と技術—その融合をめざして」、内田祥哉先生の「構造形態と建築デザイン」素晴らしいご講演でした。

□ 予告:マンスリーレポート1月号は年末年始の活動休暇期間でもあり、休刊いたします。部会開催日は記載

□ 余滴:自転車を漕ぐ背に冬の深まりぬ 捷三郎